

西川甚五郎邸・史料館

西川甚五郎邸は、現在寝具や繊維製品で有名な「西川」を創業した商家の住宅である。1587年から1942年まで西川家の人々が暮らしたこの屋敷は春と秋に期間限定で一般公開されている。また、敷地内には西川の店と小さな史料館があり、年間を通して見学が可能。

西川家は、西川仁右衛門（1549-1644）が17歳で商店を始めたのが始まり。36歳のとき、故郷の南津田村から八幡（現・近江八幡市）に移り、八幡山城の普請を監督した。その2年後、八幡に蚊帳や畳表を売る店「山形屋」を開き、17世紀以降、江戸で商売をして巨利を得る会社の礎を築いたのである。

西川の成功は、仁右衛門の四男で、1628年に父の後を継いだ西川甚五郎（別名「五郎」、1582-1675）の努力によるところが大きい。甚五郎は、蚊帳を萌黄色に染めて見栄えをよくするなど、巧みな販売戦術で将来の西川の発展の礎を築いたと言われている。蚊帳は、川や水路の多い、蚊の害に悩まされた江戸や大阪では必需品であった。甚五郎は、自社の蚊帳を春の新緑色に染め、安眠を促すというアイデアで、蚊帳を生活必需品からライフスタイル品に昇華させたのである。

西川甚五郎邸の庭にある伝統的な土蔵を利用した西川の史料館には、画期的な蚊帳のほか、一族の歴史を物語る資料などが展示されている。その隣にある西川近江八幡店では、お土産品や蚊帳の需要が少なくなってから主力となった寝具などの西川製品を販売している。

店と史料館の営業時間は火曜日を除く毎日午前10時～午後5時。史料館は入場無料。